

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 「戦争」について小中学校ではどう教えているか（30分）</p> <p>日本の「侵略戦争」が敗北・終結し、71年が経ちました。先の戦争体験者も年々少なくなり、どうして戦争が起こったかを語る人々が少なくなってきました。最近の風潮は、国内外の状況もあり危険な状況にあることを感じる昨今です。こういう時だからこそ地域・自治体では、しっかりした「戦争はダメ」「戦争は人を狂気にさせる」「戦争は、奪い合い、殺し合う」ものなどという誰もが承知していることをあらためて確認するとともに憲法に基づく教育をすることが大切です。こういうことを積み重ねないと過去の「好戦」という亡霊が忍び込みかねない事象が地域でも起こりかねないのであります。憲法の下にある自治体の責務であります。</p> <p>鶴ヶ島市立杉下小学校発行「杉の子」第134号 平成28年7月8日発行 この「杉の子」に戦争遂行への精神動員の基礎になり、国会の両院で「排除」、「失効確認」された「教育勅語」礼賛の記事が掲載されました。子どもたちの現状を憂いてのこのようですが、時代錯誤もはなはだしいものです。発行責任は鶴ヶ島市立杉下小学校です。子どもをこのように見、教育勅語と同じ徳目が必要と考えているのか、鋭く市教育委員会の責任が問われる問題です。</p> <p>(1) 市の平和政策をあらためて問います。</p> <p>(2) 8月を、鶴ヶ島市民全体を対象にした憲法と平和を考える「月」とする設定をし、内外に鶴ヶ島市の姿勢を鮮明にすべきですが。</p> <p>(3) 市教育委員会は、子どもたちの現状と精神状況をどのように見えていますか。</p> <p>(4) 今回の杉下小学校の「杉の子」に対する責任をどう取りますか。</p>	<p>市長、教育委員会教育長</p>
<p>2 人々を惹きつける政策は何か（15分）</p> <p>市は、これからの市のまちづくりで「雨乞い行事」という地域資源を活かしたまちづくりの推進をにかけています。確かに今年、4年に一度の「雨乞い行事」は、関係者のご努力によって大きく成功したと思います。しかしな</p>	<p>市長、教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>がら4年に一度のこの「行事」をまちづくりの中心に据えることはいかなるものかと疑問を感じるどころです。先日の8月10日の埼玉新聞には、2016市政中間報告～県内各市の魅力発信～という県内40市の市の中心的取り組み課題と状況を知らせる一覧で見られる記事が掲載されました。当然、当市も含まれています。こうした各市の取り組みを見るといかに時代の変化にどう対応しようか、特に少子高齢化のなかで各市とも必死に模索し、アピールをしようとしているか、その姿が浮かび上がっています。激しい競争をしているのです。このまま鶴ヶ島市が推移していくと「地方創生」に失敗するのではないかと危機感を覚えます。八潮市という市がありますが八潮市は高らかに「住みやすさNo.1のまち八潮」を掲げています。ここでは八潮市産科誘致への記事も報道されています。（‘16年6月9日読売新聞）いずれにしても前向き、積極的です。</p> <p>（1）「雨乞い行事」を市の中心的取り組み課題にしようとしていますかどうか</p> <p>（2）他市に負けない鶴ヶ島市の「売り」をどう造っていきますか、教育面も含めてお答え下さい。</p>	
<p>3 農業大学校跡地開発による大谷川の治水対策について（15分）</p> <p>（1）その後の農業大学校跡地活用の情報について。</p> <p>（2）大谷川支線の治水対策をどうすすめますか。</p> <p>太田ヶ谷の市街化調整区域部分と大谷川雨水第二幹線部分、特に、関越道管渠両サイド部分、東洋電装株式会社管渠上流部分、鶴ヶ丘郵便局部分、大谷川支流の上広谷334番地付近など。</p> <p>（3）大谷川雨水第二幹線部分は、坂戸鶴ヶ島下水道組合の管轄です。これらの工事費用はどのくらいかかり、費用負担は県に支払わせるようにしなければなりませんがいかがですか。</p>	市長